



第19期事業年度  
(令和4年度)

財 務 諸 表

自 令和4年4月1日  
至 令和5年3月31日

国立大学法人 信州大学

## 目 次

貸借対照表	.....	1
損益計算書	.....	3
純資産変動計算書	.....	5
キャッシュ・フロー計算書	.....	6
利益の処分に関する書類（案）	.....	7
重要な会計方針	.....	8
注記事項	.....	10
附属明細書	.....	別紙

# 貸 借 対 照 表

(令和5年3月31日現在)

(単位：千円)

## 資産の部

### I 固定資産

#### 1 有形固定資産

土地	33,599,061		
減損損失累計額	△ 87,598		33,511,462
建物	97,564,539		
減価償却累計額	△ 62,497,657		
減損損失累計額	△ 103,830		34,963,050
構築物	5,148,707		
減価償却累計額	△ 3,778,611		
減損損失累計額	△ 15,115		1,354,980
機械装置	362,544		
減価償却累計額	△ 312,834		49,709
工具器具備品	42,827,280		
減価償却累計額	△ 34,843,461		7,983,818
図書			6,226,349
美術品・收藏品			147,375
船舶	2,220		
減価償却累計額	△ 2,220		0
車両運搬具	191,372		
減価償却累計額	△ 149,517		41,854
建設仮勘定			2,942,838
有形固定資産合計			87,221,441

#### 2 無形固定資産

特許権			12,744
ソフトウェア			95,005
その他無形固定資産			441
無形固定資産合計			108,190

#### 3 投資その他の資産

投資有価証券			1,340,385
長期前払費用			7,172
投資その他の資産合計			1,347,557

固定資産合計

88,677,190

### II 流動資産

現金及び預金			13,353,013
未収学生納付金収入			70,638
未収附属病院収入	5,316,977		
徴収不能引当金	△ 23,000		5,293,977
その他未収入金			1,444,122
有価証券			100,008
医薬品及び診療材料			405,914
貯蔵品			63,186
その他流動資産			196,923

流動資産合計

20,927,784

資産合計

109,604,974

負債の部

I 固定負債

長期繰延補助金等 (注)	2,786,773	
長期寄附金債務 (注)	40,300	
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	888,132	
長期借入金	14,540,859	
退職給付引当金	990,221	
長期未払金	2,872,343	
資産除去債務	152,811	
長期預り保証金	94,284	
固定負債合計		22,365,726

II 流動負債

運営費交付金債務 (注)	428,759	
預り施設費 (注)	487,532	
預り補助金等 (注)	8,041	
寄附金債務 (注)	3,568,247	
前受受託研究費 (注)	382,709	
前受共同研究費 (注)	430,845	
前受受託事業費等 (注)	124,937	
前受金	77,008	
預り金	600,216	
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	444,974	
一年以内返済予定長期借入金	1,254,218	
未払金	7,454,949	
前受収益	1,866	
未払費用	47,217	
賞与引当金	219,632	
流動負債合計		15,531,156
負債合計		37,896,882

純資産の部

I 資本金

政府出資金	46,964,713	
資本金合計		46,964,713

II 資本剰余金

資本剰余金	36,699,661	
減価償却相当累計額(△) (注)	△ 40,481,081	
減損損失相当累計額(△) (注)	△ 194,080	
利息費用相当累計額(△) (注)	△ 26,393	
除売却差額相当累計額(△) (注)	△ 932,513	
資本剰余金合計		△ 4,934,406

III 利益剰余金

前中期目標期間繰越積立金 (注)	16,780,890	
当期末処分利益	12,896,895	
(うち当期総利益 12,896,895)		
利益剰余金合計		29,677,785
純資産合計		71,708,092
負債純資産合計		109,604,974

(注) これらは、国立大学法人等固有の会計処理に伴う勘定科目です。

損 益 計 算 書  
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：千円)

経常費用			
業務費			
教育経費	2,479,085		
研究経費	2,895,671		
診療経費	20,303,613		
教育研究支援経費	806,483		
受託研究費	2,108,688		
共同研究費	874,164		
受託事業費	373,324		
役員人件費	125,445		
教員人件費	12,175,875		
職員人件費	13,249,718	55,392,070	
一般管理費			1,627,136
財務費用			
支払利息	32,415		
ファイナンス・リース支払利息	23,209		
為替差損	363	55,989	
雑損			40,952
経常費用合計			57,116,149
経常収益			
運営費交付金収益(注)		13,469,148	
授業料収益(注)		5,619,654	
入学金収益(注)		843,355	
検定料収益		171,289	
施設費収益		348,422	
附属病院収益		28,154,237	
受託研究収益(注)		2,646,419	
共同研究収益(注)		1,079,729	
受託事業等収益(注)		404,151	
寄附金収益(注)		1,306,293	
補助金等収益(注)		2,417,887	
財務収益			
受取利息	2,348		
有価証券利息	5,732	8,081	
雑益			
財産貸付料収入	687,949		
大学入学共通テスト実施料収入	35,078		
研究関連収入	283,841		
農産物等売却収入	45,634		
演習林収入	6,312		
その他の雑益	269,618	1,328,435	
経常収益合計			57,797,106
経常利益			680,956
臨時損失			
固定資産除却損		5,210	
減損損失		1,394	
その他の臨時損失		18,931	25,535
臨時利益			
資産見返物品受贈額戻入(注)		5,248,370	
資産見返運営費交付金等戻入(注)		4,957,074	
資産見返寄附金戻入(注)		1,572,214	
固定資産売却益		2,434	
補助金等収益		0	11,780,095
当期純利益			12,435,515
取崩額			
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)			461,379
当期総利益			12,896,895

(注) これらは、国立大学法人等固有の会計処理に伴う勘定科目です。

資本剰余金を減額したコスト等に関する注記  
当期総利益

12,896,895

減価償却相当額	△ 1,524,008	
減損損失相当額	△ 63,053	
利息費用相当額	△ 798	
除売却差額相当額	△ 393	
賞与引当増加相当額	△ 47,230	
退職給付引当増加相当額	72,125	
小計		△ 1,563,359
施設費収益相当額		512,027
その他		0
資本剰余金を減額したコスト等を含めた損益相当額		<u>11,845,564</u>

(注) 退職給付引当増加相当額のうち、国又は地方公共団体からの出向職員（期末現在 75名）に係る退職給付引当増加相当額が 12,670千円含まれています。

科学研究費助成事業等に関する注記

当期受入額	1,007,030
当期支出額	1,028,270

純 資 産 変 動 計 算 書  
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：千円)

	I 資本金		II 資本剰余金						III 利益剰余金					純資産合計	
	政府出資金	資本金合計	資本剰余金※	減価償却 相当累計額 (△)	減損損失 相当累計額 (△)	利息費用 相当累計額 (△)	除売却差額 相当累計額 (△)	資本剰余金合計	前中期目標期間 繰越積立金	教育研究診療の質 の向上及び組織運 営等の改善積立金	積立金	当期末処分利益	うち当期総利益		利益剰余金 合計
当期末残高	46,964,713	46,964,713	34,827,990	△ 39,018,544	△ 131,026	△ 25,594	△ 870,648	△ 5,217,824	13,652,040	1,048,026	1,667,739	2,240,368	-	18,608,174	60,355,063
当期変動額															
I 資本金の当期変動額															
II 資本剰余金の当期変動額															
固定資産の取得			512,027					512,027							512,027
固定資産の除売却				61,471			△ 61,864	△ 393							△ 393
減価償却				△ 1,524,008				△ 1,524,008							△ 1,524,008
固定資産の減損					△ 63,053			△ 63,053							△ 63,053
時の経過による資産除去債務の増加						△ 798		△ 798							△ 798
資産除去債務の履行に伴う取り崩し															
土地の譲渡に伴う大学改革支援・学位授与機構への納付等															
III 利益剰余金の当期変動額															
(1) 利益の処分又は損失の処理															
前中期目標期間からの繰越し								18,601,912			△ 18,601,912				-
積立金への振替								△ 13,652,040	△ 1,048,026	16,940,434	△ 2,240,368				-
利益処分による取り崩し															
国庫納付金の納付											△ 6,261			△ 6,261	△ 6,261
(2) その他															
当期純利益												12,435,515	12,435,515	12,435,515	12,435,515
前中期目標期間繰越積立金取崩額			1,359,643					1,359,643	△ 1,821,022			461,379	461,379	△ 1,359,643	-
目的積立金取崩額			-					-				-	-	-	-
当期変動額合計			1,871,671	△ 1,462,537	△ 63,053	△ 798	△ 61,864	283,417	3,128,849	△ 1,048,026	△ 1,667,739	10,656,527	12,896,895	11,069,611	11,353,028
当期末残高	46,964,713	46,964,713	36,699,661	△ 40,481,081	△ 194,080	△ 26,393	△ 932,513	△ 4,934,406	16,780,890	-	-	12,896,895	12,896,895	29,677,785	71,708,092

(注1) 積立金の国庫納付等

1 前中期目標期間最終年度の積立金の期末残高は1,667,739千円であり、これに前中期目標期間の最終年度の未処分利益2,240,368千円、目的積立金の使用残額1,048,026千円及び前中期目標期間繰越積立金の使用残額13,652,040千円を加えると、積立金は18,608,174千円となります。

2 この積立金18,608,174千円のうち、今中期目標期間の業務の財源及び固定資産の見合い等として繰越の承認を受けた額は18,601,912千円であり、差し引き6,261千円については国庫に納付しました。

(注2) 令和4事業年度の純資産変動計算書における資本剰余金の当期末残高は、令和3事業年度の期末残高から損益外除売却差額相当額を控除した額としているため、令和3事業年度の貸借対照表における資本剰余金残高と整合しません。

キャッシュ・フロー計算書  
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：千円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー		
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 23,490,305	
人件費支出	△ 25,902,733	
その他の業務支出	△ 1,508,781	
運営費交付金収入	13,897,908	
授業料収入	5,058,991	
入学金収入	807,556	
検定料収入	171,289	
附属病院収入	27,888,496	
受託研究収入	2,430,451	
共同研究収入	1,194,614	
受託事業等収入	406,207	
その他の収入	1,312,536	
補助金等収入	2,823,882	
補助金等の精算による返還金の支出	△ 51,384	
寄附金収入	1,087,457	
科学研究費助成事業等預り金の減少	△ 47,516	
小計	6,078,670	
国庫納付金の支払額	△ 6,261	
業務活動によるキャッシュ・フロー	6,072,408	
II 投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△ 14,100,000	
定期預金の払戻による収入	13,300,000	
有価証券の取得による支出	△ 100,000	
有価証券の償還による収入	100,000	
有形固定資産の取得による支出	△ 6,274,358	
有形固定資産の売却による収入	10	
無形固定資産の取得による支出	△ 6,843	
施設費による収入	1,072,944	
小計	△ 6,008,248	
利息及び配当金の受取額	7,040	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,001,207	
III 財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入による収入	2,353,713	
長期借入金の返済による支出	△ 1,170,061	
大学改革支援・学位授与機構への債務負担金の返済による支出	△ 451,894	
リース債務の返済による支出	△ 1,026,591	
割賦債務の返済による支出	△ 4,388	
小計	△ 299,221	
利息の支払額	△ 55,357	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 354,579	
IV 資金に係る換算差額	-	
V 資金減少額	△ 283,377	
VI 資金期首残高	5,836,391	
VII 資金期末残高	5,553,013	



## 利益の処分に関する書類（案）

（単位：千円）

I	当期未処分利益		12,896,895
	当期総利益	12,896,895	
II	利益処分類		
	積立金	11,114,338	
	国立大学法人法第35条において準用する独立 行政法人通則法第44条第3項により文部科学 大臣の承認を受けようとする額		
	教育研究診療の質の向上及び組織運営等の 改善積立金	1,782,556	1,782,556
			12,896,895

(重要な会計方針)

当事業年度より、国立大学法人会計基準（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」報告書）（国立大学法人会計基準等検討会議 令和4年2月10日改訂）及び「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（文部科学省、日本公認会計士協会 令和5年4月13日最終改訂）を適用して、財務諸表等を作成しております。なお、国立大学法人会計基準等のうち、収益認識に関する会計基準の導入による改訂内容については、令和5事業年度から適用します。

1. 運営費交付金収益及び授業料収益の計上基準

下記を除き、期間進行基準を採用しております。

文部科学省が指定する基幹運営費交付金	…	業務達成基準
特殊要因運営費交付金	…	費用進行基準
学内プロジェクトに充当される運営費交付金	…	業務達成基準
授業料等免除実施経費（令和2年度補正予算）	…	費用進行基準

2. 減価償却の会計処理方法

(1)有形固定資産

定額法を採用しております。

耐用年数について法人税法上の耐用年数を基準としているが、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建 物	10～50年
工具器具備品	2～8年

ただし、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、受託研究費等収入により取得した償却資産については、契約期間を耐用年数としております。

また、特定の償却資産（国立大学法人会計基準第78）及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等（国立大学法人会計基準第85）の減価償却相当額については、減価償却相当累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

(2)無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（5年）に基づいております。

3. 引当金等の計上基準

(1)退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準並びに退職給付費用の処理方法

運営費交付金により財源措置がなされない職員に対しては、退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき退職給付引当金を計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準を適用しております。

過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理することとしております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

上記以外の教職員に係る退職一時金については、運営費交付金により財源措置がなされているため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。なお、資本剰余金を減額したコスト等の注記における退職給付引当増加相当額は、基準第82第4項に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上しております。

(2)徴収不能引当金の計上基準

債権の貸倒による損失に備えるため、未収附属病院収入のうち貸倒懸念債権等については貸倒実績率を基礎として回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(3)賞与引当金の計上基準

運営費交付金により財源措置がされていない教職員に係る賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

上記以外の教職員に係る賞与については、運営費交付金により財源措置がなされているため、賞与に係る引当金は計上しておりません。なお、資本剰余金を減額したコスト等の注記における賞与引当増加相当額は、基準第81第2項に基づき計算された賞与引当相当額の当期増加額を計上しております。

4. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1)満期保有目的の債券 … 償却原価法（定額法）

(2)その他有価証券 … 時価のない株式については、移動平均法による原価法を採用しております。

5. たな卸資産の評価基準及び評価方法

医薬品及び診療材料 … 移動平均法に基づく低価法

（ただし、物流システムが完成するまでの間、評価方法は最終仕入原価法によります。）

貯 蔵 品 … 最終仕入原価法

6. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. リース取引の会計処理

リース料総額が3,000千円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

8. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式によります。

(会計方針の変更)

・会計基準の改訂に伴う資産見返負債の計上の廃止

前事業年度まで運営費交付金、授業料、寄附金を財源として固定資産を取得した場合、資産見返負債を計上し、減価償却に伴い同額を収益に振り替えておりましたが、当事業年度より改訂後の国立大学法人会計基準等を適用し、固定資産を取得した時点で収益を計上することとし、資産見返負債は計上していません。

なお、改訂後の国立大学法人会計基準等に従って、前事業年度末の資産見返負債は当期首に臨時利益に計上しております。

この結果、前事業年度と比較して経常収益が568,251千円減少するとともに、臨時利益が11,764,989千円増加、臨時損失が1,394千円増加し、当期純利益及び当期総利益は11,195,343千円増加しております。

また、前事業年度の貸借対照表における「資産見返補助金等」は当事業年度より「長期繰延補助金等」、「建設仮勘定見返施設費」は「預り施設費」としてそれぞれ表示しておりますが、損益に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

・純資産の部

損益外減価償却累計額、損益外減損損失累計額及び損益外利息費用累計額について、国立大学法人会計基準等の改訂に伴い当事業年度より、減価償却相当累計額、減損損失相当累計額及び利息費用相当累計額として表示しております。

損益外除売却差額相当額について、前事業年度まで資本剰余金に含めておりましたが、国立大学法人会計基準等の改訂に伴い当事業年度より、資本剰余金の控除項目の除売却差額相当累計額として表示しております。

損益外除売却差額相当額について表示方法を変更したことにより、資本剰余金の当期首残高が870,648千円増加し、除売却差額相当累計額の当期首残高が870,648千円減少しております。

(注記事項)

1. 貸借対照表関係

(1)退職給付引当相当額	11,364,949千円
(2)賞与引当相当額	1,017,238千円
(3)債務保証の総額	1,333,107千円
(4)担保に供している資産	20,371,176千円
担保に対応する債務	15,795,077千円
(5)利益剰余金のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの	
① 国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの	
附属病院に関する借入金の元金償還額の累計	40,940,497千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費の累計	29,110,973千円
利益剰余金に与える影響額(差引き)	11,829,524千円
② 国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの収益化額が二重になっていることによるもの	
法人移行時に国から承継した資産について承継時に負債として計上していた額のうち、資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する当該負債の収益化累計額	1,411,354千円
③ 国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの	329,618千円
④ 国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの	318,411千円
	13,888,908千円
(6)PFIに類似する取引のサービス部分に係る対価の支払予定額	
① 貸借対照表日以後一年以内のPFIに類似する取引期間に係る支払予定額	19,291千円
② 貸借対照表日以後一年を超えるPFIに類似する取引期間に係る支払予定額	1,286,682千円

なお、サービス部分の支払予定額は、物価変動等に伴い改定されることがあります。

2. 損益計算書関係

(1)その他の臨時損失の計上	
前期に補助金等収益に計上した補助金の額の再確定に係る返還を行ったことに関するもの	18,931千円
(2)臨時利益のうち、会計基準改訂に伴い期首に収益化を行ったことによるもの	
資産見返物品受贈額戻入額	5,248,370千円
資産見返運営費交付金等戻入額	4,957,074千円
資産見返寄附金戻入額	1,572,214千円
(3)当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの	
① 国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの	
附属病院に関する借入金の元金償還額	1,621,955千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	1,696,476千円
当期総利益に与える影響額(差引き)	△74,521千円
② 国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの収益化額が二重になっていることによるもの	
法人移行時に国から承継した資産について承継時に負債として計上していた額のうち、資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する当該負債の収益化額	一千円
	△74,521千円

3. 減損関係

(1)減損を認識した資産

① 山地水環境教育研究センターの土地	
資産の用途：山地水環境教育研究センターの敷地	
資産の場所：長野県諏訪市	
帳簿価額等の概要：	70,000千円
減損の認識に至った経緯：固定資産の市場価格が著しく下落した。	
減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の内訳	
損益計算書に計上した金額	一千円
損益計算書に計上していない金額	37,520千円
回収可能サービス価額の算定方法	
正味売却価格により算定しております。正味売却価格は、不動産鑑定評価額を参考に近隣地の地価公示価格の推移による減少率を考慮し、算出しております。	
② 菅平研究施設の土地	
資産の用途：繊維学部菅平研究施設の敷地	
資産の場所：長野県上田市菅平	
帳簿価額等の概要：	9,470千円
減損の認識に至った経緯：固定資産の市場価格が著しく下落した。	

減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の内訳

損益計算書に計上した金額 一千元  
 損益計算書に計上していない金額 5,369千円

回収可能サービス価額の算定方法

正味売却価格により算定しております。正味売却価格は、不動産鑑定評価額を参考に  
 近隣地の地価公示価格の推移による減少率を考慮し、算出しております。

③ 教育学部旧第一体育館

資産の用途：屋内運動施設

資産の場所：長野県長野市

帳簿価額等の概要：

21,558千円

減損の認識に至った経緯：学内において令和5年2月に令和5年3月1日以降使用しないと決定した。

減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の内訳

損益計算書に計上した金額 1,394千円  
 損益計算書に計上していない金額 20,163千円

回収可能サービス価額の算定方法

取り壊しが予定されているため、使用価値相当額（備忘価額）を採用しています。

(2)減損の兆候が認められた資産（減損を認識した場合を除く）

(単位：千円)

用途	種類	場所	帳簿価額	備考
桐宿舎	土地	長野県松本市桐	35,068	注1
西小深宿舎	土地	長野県上田市中央	27,823	注1
非常勤講師宿泊施設	建物	長野県長野市西長野	15,483	注2
短期宿泊施設	建物	長野県松本市旭	13,438	注3
食と緑の科学資料館	建物	長野県上伊那郡南箕輪村	70,512	注3

減損の兆候の概要及び減損を認識しない根拠

(注1) 使用中止により遊休状態にあるが、回収可能サービス価額が当該資産の帳簿価額を上回っているため、減損を認識しておりません。

(注2) 業務実績の低下により、使用が想定される部分の割合から算出した回収可能サービス価額まで減損済みであり、引続き使用が想定されるため、減損を認識しておりません。

(注3) 新型コロナウイルス流行の影響に伴い、業務実績が一時的に低下したものであり、事態の収束後に回復が想定されるため、減損を認識しておりません。

4. 資産除去債務関係

本学において、(1)石綿障害予防規則等の規定に基づく建物のアスベスト除去義務、及び(2)土地の賃貸借契約等に伴う原状回復義務について、この除去費用を資産除去債務として計上しております。

なお、算出にあたり、使用見込期間を取得から5年～34年と見積もり、割引率は資産除去債務計上時の長期プライムレートとしました。

(1)石綿障害予防規則等の規定に基づく建物のアスベスト除去義務

① 松本キャンパス学生食堂

事 由 飛散防止措置済みのアスベスト除去費用（購買室、食堂、浴室の天井裏）

使用見込期間 償却済み資産

② 医学部英岳寮（学生寄宿舎）

事 由 飛散防止措置済みのアスベスト除去費用（厨房天井裏）

使用見込期間 償却済み資産

③ 繊維学部附属農場機械室

事 由 飛散防止措置済みのアスベスト除去費用（天井裏）

使用見込期間 償却済み資産

④ 松本キャンパス本部旭会館煙突 外14本

事 由 アスベスト含有保温材を有する煙突の撤去費用

使用見込期間 7年 外

(2)土地の賃貸借契約等に伴う原状回復義務

① 山岳科学総合研究所乗鞍高原ステーション

事 由 土地の原状回復費用

使用見込期間 5年

② 医学部附属病院 通信設備（長野県松本旭町庁舎）

事 由 賃借建物の原状回復費用

使用見込期間 2年

(3)当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減は次のとおりであります。

期首残高 151,996千円  
 時の経過による調整額 815千円  
 期末残高 152,811千円

5. キャッシュ・フロー計算書関係

(1) 資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金勘定	13,353,013千円
定期預金	△7,800,000千円
資金期末残高	5,553,013千円

(2) 重要な非資金取引

① ファイナンス・リースによる資産の取得	74,211千円
② 現物寄附による資産の取得	118,938千円
③ PFIに類似する取引による固定資産の取得	1,046,027千円
④ 寄附によるその他有価証券（非上場株式）の取得	250千円

6. 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストに関する注記

I 業務費用

(1) 損益計算書上の費用	57,141,685千円	
(2) (控除) 自己収入等	△46,145,179千円	
業務費用合計		10,996,506千円

II 資本剰余金を減額したコスト等 1,563,359千円

III 機会費用

国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	18,202千円	
政府出資等の機会費用	126,179千円	144,381千円

IV (控除) 国庫納付金 一千円

V 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト 12,704,246千円

(注1) (控除) 自己収入等には、会計基準改訂に伴い期首に臨時利益に計上した資産見返運営費交付金等戻入（授業料分のみ）3,506,097千円及び資産見返寄附金戻入1,572,214千円が含まれています。

(注2) 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストに関する注記における機会費用の計上方法

- ① 国等の財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用の計算方法  
国の法律及び地方公共団体が定めた条例（単価表）又は、近隣の地代・賃借料を参考に計算しております。
- ② 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率  
10年国債の令和5年3月末利回りを参考に0.320%で計算しております。「国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の算定に係る利回りについて（通知）」（令和5年4月11日付け5文科高第33号）
- ③ 国等からの無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用の計算に使用した利率  
10年国債の令和5年3月末利回りを参考に0.320%で計算しております。「国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の算定に係る利回りについて（通知）」（令和5年4月11日付け5文科高第33号）

7. 土地の譲渡に伴う資本金の減少について  
当期実績はございません。

8. 重要な債務負担行為

(単位：千円)

件名	契約金額	翌期以降支払額
医学部附属病院病棟等改修機械設備工事	4,573,140	3,412,431
医学部附属病院病棟等改修その他工事	3,913,800	2,908,722
医学部附属病院病棟等改修電気設備工事	1,809,500	1,342,720
信州大学松本キャンパス駐車場整備等事業	1,865,974	1,305,974

9. 退職給付に係る注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

本学は、職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度並びに国家公務員共済組合法の退職等年金給付制度を採用しております。

退職一時金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、原則法により退職給付費用を計算しております。

## (2) 確定給付制度

## ① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	883,528千円
勤務費用	111,036千円
利息費用	7,951千円
数理計算上の差異の当期発生額	△62,245千円
過去勤務費用の差異の当期発生額	△51,707千円
退職給付の支払額	△43,307千円
期末における退職給付債務	845,255千円

## ② 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の未積立退職給付債務	845,255千円
未認識数理計算上の差異	103,599千円
未認識過去勤務費用	41,366千円
退職給付引当金	990,221千円

## ③ 退職給付に関連する損益

勤務費用	111,036千円
利息費用	7,951千円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	△10,338千円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△10,341千円
合計	98,308千円

## ④ 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎  
割引率 1.4%

## (3) 退職等年金給付制度

本学の退職等年金給付制度への要拠出額 130,162千円

## 10. 金融商品関係

## (1) 金融商品の状況に関する事項

本学は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定し、資金調達については大学改革支援・学位授与機構からの借入りに限定しております。

資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、地方債及び投資適格以上の社債のみ保有しており、株式等は保有しておりません。

なお、国立大学法人法第34条の3における業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定を受けており、金利や為替の変動による市場リスクや信用リスク等を包含する運用資産を保有する場合には、国立大学法人信州大学資金運用細則に基づき適切なリスク管理を実施し、資金の運用状況を監視する資金運用管理委員会に報告することとしております。

また、未収附属病院収入は、国立大学法人信州大学債権管理事務取扱細則に沿ってリスク管理を行っております。大学改革支援・学位授与機構債務負担金及び長期借入金の使途は附属病院の整備資金であり、文部科学大臣の事前承認に基づいて借入れを実施しております。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は次表には含めておりません。また、現金は注記を省略しており、預金、未収入金及び未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価格に近似することから、注記を省略しております。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額(*1)	時価(*1)	差額(*1)
(1) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,400,093	1,385,694	△ 14,399
(2) 大学改革支援・学位授与機構債務負担金	(1,333,107)	(1,356,388)	(23,281)
(3) 長期借入金	(15,795,077)	(15,587,234)	207,843
(4) リース債務	(3,345,046)	(3,249,127)	95,919

(\*1) 負債に計上されているものについては、( ) で示しております。

(注1) 市場価格のない株式等は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	40,300

(注2) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の三つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価： レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 有価証券及び投資有価証券

地方債及び社債は相場価格を用いて評価しております。これらは活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

(2) 大学改革支援・学位授与機構債務負担金、並びに(3) 長期借入金及び(4) リース債務

これらの時価については、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

11. 賃貸等不動産関係

本学は、長野県内において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

12. 重要な後発事象

該当事項はございません。

13. その他

貸借対照表、損益計算書、純資産変動計算書及びキャッシュ・フロー計算書の記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。